４）外来種の分布状況

外来種の生息域が拡大傾向

～河川の２巡目調査では、３河川でコクチバスを新たに確認～

河川水辺の国勢調査で確認された外来種のうち、代表的な種について１巡目と２巡目の確認河川数を比較しました。

近年、外来種は生物多様性を保全する上で最も大きな脅威の一つとして認識されており、人間が意図的・非意図的に持ち込んだ外来種が、侵入先の在来種を捕食、競争、病害などによって減少させたり、在来種と交雑したりすることにより、在来種の絶滅の可能性を高めるなどの問題を引き起こすことが、これまで多くの事例から明らかにされています。

魚類のうち、在来の魚介類を捕食することで問題となっているブルーギルとオオクチバスは、確認河川数および確認ダム数が増加しています。また、コクチバスは、1992年頃から長野県野尻湖や木崎湖、福島県檜原湖で相次いで確認された種で、その後急激に分布を拡大していると言われています。河川での河川水辺の国勢調査の結果、１巡目では全く確認されませんでしたが、２巡目調査では３河川で確認されており、今後の分布域の拡大を注意深く監視する必要があります。

魚類以外の種をみても、ここで採り上げた代表的な外来種の確認河川数は、いずれも増加もしくは横這いです。また、ハリエンジュ、ブタクサ、アレチウリ、ウシガエルは90河川以上で確認されているなど、すでに多くの河川に分布している種も少なくありませんでした。

確認した河川数およびダム数が少ない外来種についても、人為的に分布を拡大したり、在来種に影響を及ぼす可能性があるため、今後ともモニタリングを続けていく必要があります。